

BRIDGESTONE

あなたと、つぎの景色へ

2017 知的財産報告書
Intellectual Property Report



C o n t e n t s

<i>1</i>	ごあいさつ	1
<i>2</i>	2017年の知的財産活動の重点課題	2
<i>3</i>	知的財産の事業への貢献	3
<i>4</i>	リスク対応情報	5
<i>5</i>	社外表彰	6

資料

会社概要

1 ごあいさつ

当社グループを取り巻く事業環境は、国際関係・政治・経済・環境・技術革新といったあらゆる面で大転換期にあり、社会構造や消費者意識も大きく変化し、真に激動の時代にあると認識しております。こうした中、当社グループは企業理念を事業活動の基盤とし、経営の最終目標である「真のグローバル企業」、「業界において全てに『断トツ』」の達成に向け、「Lean & Strategic」（足元では無駄なく、中長期的な戦略課題とバランス）と「グループ・グローバル最適」という基本姿勢を堅持し、「SBU（戦略的事業ユニット）組織体制」及び「中期経営計画」を改革ツールに、経営改革を継続してまいります。

さらに、「グローバル企業文化の育成」「グローバル経営人材の育成」「グローバル経営体制の整備」の3点を重点課題として事業運営に取り組んでまいります。

現在、知的財産界においてもIoT、人工知能（AI）が普及する第四次産業革命を視野に入れた新しい知財システムの構築に動く一方で、企業の事業活動のグローバル化に対応した知財システムの確立が急がれるなど、グローバルでさまざまな制度改革が起きている。こういった環境下、当社グループは、知的財産を「企業経営を支える重要な経営資源」として位置付け、企業価値の最大化に貢献する知的財産活動の基本方針として、次の3つの取り組みを掲げております。

1. ソリューション事業に貢献する知財戦略の提案・実行
2. 知財関連のリスク管理の徹底
3. グループ・グローバルでの知財体制の強化

この基本方針に基づき、今後は商品単体や技術単体のみならず、ITやサービスを組み合わせた様々なソリューションビジネスをはじめとする事業そのものを新たな知的財産の枠組みの中で保護し活用できるよう、より一層先進的な取り組みを進めてまいります。

本報告書を通じて、皆さまに当社グループの知的財産活動に対するご理解を更に深めて頂ければ幸いです。

株式会社ブリヂストン
取締役 代表執行役 CEO
兼 取締役会長
津谷 正明



2

2017年の知的財産活動の重点課題

当社の知的財産本部では、真に経営に貢献する知財を目指すため、以下の3点を2017年の重点課題として活動してまいります。

(1) ソリューション事業に貢献する知財戦略の提案・実行

既存事業の枠を超えて顧客価値を提供するソリューションビジネスに於いて、バリューチェーンの川上から川下まで全体を守る包括的な知的財産活動を推進致します。

市場環境／業界の動向変化を知財情報分析により先読みし、経営への発信力を強化します。

(2) 知財関連のリスク管理の徹底

戦略的事業ユニット（SBU）の販売・マーケティング部門と知財部門との連携を一層強化し、自社の知的財産権に対する模倣品／侵害品に対応した知財リスクマネジメント力を更に強化いたします。

また、営業秘密管理体制の取り組みを更に拡大し、グループ・グローバルでの情報管理対策を継続強化してまいります。

(3) グループ・グローバルでの知財体制の強化

グループ・グローバル全体での知的財産活動を、事業・技術・イノベーションに係る全社経営戦略と、より整合性のあるものにすべく、グループでの知的財産ガバナンスを強化いたします。

各SBU知財部門の機能と責任を明確化し、グループ・グローバルでの知財の連携体制を整備・強化してまいります。

3

知的財産の事業への貢献

ここでは、2016年の知的財産活動の具体例として、最新鋭タイヤ成型システム「EXAMATION」及びソリューション事業における知的財産活動をご紹介します。

最新鋭タイヤ成型システム「EXAMATION」

「EXAMATION^{※1}」とは、タイヤ生産技術における更なる品質向上、高生産性を実現するため、当社独自のICT^{※2}に、新たに人工知能(AI)を実装した最新鋭タイヤ成型^{※3}システムです。

「EXAMATION」には、これまで「BIRD」で培ってきたICTを進化させるとともに、新たなコンセプト Bridgestone Intelligent office BIO^{※4} / Bridgestone Intelligent Device BID^{※5} (以下BIO/BID) に基づいた革新的な生産技術を実現する当社独自のICTを搭載しています。BIO/BIDは、当社のコア技術である高分子・ゴム・複合体の材料加工に関する知見を加えた独自のデータ解析に、生産工程等で得られる膨大な情報をビッグデータ解析し、更に技能員が培ってきた技術・ノウハウを加えた独自のアルゴリズムを搭載する新技術です。

当社は重要な技術及び製品に対して、知的財産部門と開発部門が連携を取りながら知財GATE (ゲート) 活動を行っております。

知財GATE活動とは、開発初期から商品販売までの開発スケジュールに即して上述の両部門が会議体を通じ、知的財産に関わる情報共有や施策の立案を行うことを指します。

知財GATE活動を通じて、EXAMATIONの革新的な生産技術を知的財産で保護するとともに、本システムにより得られるこれまでの知見を超えたアルゴリズムをビジネスモデル特許やノウハウ管理により、積極的に保護いたします。



< EXAMATION 外観 >

※1 「EXAMATION (エクサメーション)」は当社の商標です。(Evolutional/革新的な×Attractive/魅力的) +AutoMATION (自動化設備) を由来としています。

※2 ICT: Information and Communication Technology (情報通信技術)

※3 成型: ゴム、ベルト、コードなどの様々な部材をタイヤの形状に組み合わせること

※4 Bridgestone Intelligent office BIO: フィールド情報・設計情報と固有技術をつなぎ、知見を超えたアルゴリズムを生み出す新技術群

※5 Bridgestone Intelligent Device BID: アルゴリズムに基づき生産システムを自動制御し、断トツのモノづくり力を引き出す新技術群

ビジネスモデル変革、ソリューションビジネスへの対応

当社は、イノベーションの促進を通じたグローバルで高い競争力を持つ商品・サービスの拡充や、単なる商品単体の販売に終わらないソリューションビジネスの構築・拡大を図ってまいりました。

当社にはタイヤへの入力に対しての応答・変形・劣化の入出力メカニズムだけでなく、お客様との長年の関係で蓄積された膨大なノウハウの塊があり、これらノウハウを管理し、コモディティー化させないことでソリューション事業の競争力に繋げていきます。

また、IT・ビッグデータの活用で、タイヤの入出力と使用オペレーションの関係分析が急激に進んでいる中で、ビッグデータが新しい知財価値を生み出すと認識しております。これらビッグデータを読み解くノウハウ・技術の保護活用を進めてまいります。また、これらIT技術を用いた新しい価値創造には自社単独ではなく、他業種との共同作業による成果の創出が必要になるため、共同作業を進めるにあたって必要となる契約の管理を行ってまいります。

さらに、知財情報分析を強化することで、デジタル・IoTの動きを早期に把握し、リスクマネジメントを強化致します。

4

リスク対応情報

当社グループでは、知的財産を企業の競争力を高めるための重要な経営資源と位置づけております。第三者による知的財産権侵害があった場合には、当社グループの製品差別化や競争優位性が確保されない等のリスクが想定されます。

従いまして、当社が保有している多数の知的財産権の保護、並びに当社知的財産権に対する侵害の予防に努めております。

知的財産権侵害に対する当社グループの対応事例をご紹介します。

三角社との意匠権侵害訴訟 中国最高人民法院で当社勝訴が確定

当社は、中国の大手タイヤメーカーである三角輪胎股份有限公司（以下、三角社）が、当社が意匠権を持つスタッドレスタイヤのトレッドパターン※6を使用してタイヤを製造・販売した行為は意匠権侵害に該当するとして、2013年10月に、中国長春市中級人民法院に意匠権侵害で提訴しました。その結果、2015年7月に当社の主張が認められ、三角社に対して製造・販売の中止、及び損害賠償金の支払いを命じる判決が下されました。この判決に対して三角社は上訴しましたが、第二審の吉林省高級人民法院においても、2016年1月に第一審判決を維持するとの判決が下され、当社の勝訴が確定しました。第二審判決に対し、2016年6月に、三角社は中国最高人民法院に再審請求していましたが、2016年9月に、第二審判決は妥当であり、三角社の請求を棄却するとの裁定が下され、当社の主張が一貫して支持されました。

当社グループは知的財産の保護に努めており、当社の特許、商標、及びその他の知的財産の不正使用または侵害に対しては今後も厳正に対処していきます。そうした活動を通じて、お客様の安心・安全を最優先し、ブランド価値の維持・向上を図っていきます。

※6 タイヤが路面と直接接する部分に刻まれている溝の模様。

5

社外表彰

Top 100 グローバル・イノベーター 2016 選出

当社は、クラリベイト アナリティクス社が発表する「Top 100 グローバル・イノベーター 2016」に選出されました。Top100 グローバル・イノベーターは、独創的な発明のアイデアを知的財産権によって保護し、事業化を成功させることで、世界のビジネスをリードする企業・機関トップ100を選出するもので、当社としては2015年に続き2度目の選出となります。

Top100 グローバル・イノベーターは、4つの評価軸を基本としています。「特許数」、「成功率」、「グローバル性」、「引用における特許の影響力」（分析対象は過去5年間。「グローバル性」のみ過去3年間）です。特許データベースから抽出された厳格かつ客観的なデータ、クラリベイト アナリティクスの評価基準に基づき、革新的であること、知的財産権保護の遵守に努めている企業であることが認められました。当社グループは、知的財産を企業経営を支える重要な経営資源として位置付けており、今後も企業価値の最大化に貢献する知的財産活動を推進していきます。

□ Top100 グローバル・イノベーター 2016 受賞 授賞式



【トロフィー贈呈の様子】
 左：クラリベイト アナリティクス社日本代表 日野博文 様
 右：当社 知的財産本部長 荒木 充

グッドデザイン賞受賞



当社グループの3つの商品が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「2016年度グッドデザイン賞^{※7}」を受賞しました。当社グループは、これまで194件のグッドデザイン賞を受賞しており、1997年からは20年連続で受賞しています。

当社グループは、知的財産権を効果的に活用することで、独自の優れた技術やデザイン等を知的財産として保護し、当社グループのブランド価値の維持・向上に努めてまいります。

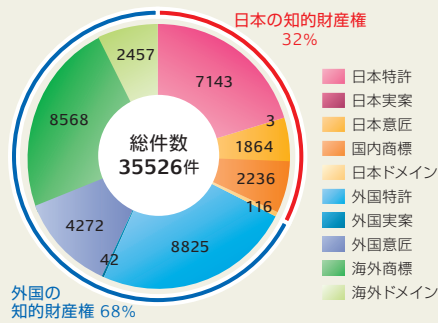
□ 2016年度 グッドデザイン賞 受賞商品

 <p>REGNO GR-Leggera</p>	<p>REGNO GR-Leggera</p> <p>REGNO GR-Leggeraは、軽自動車専用に静粛性能／乗り心地／運動性能を高次元でバランスさせた商品です。REGNOブランドで培ったサイレントテクノロジーを軽自動車専用にチューニングし、専用のトレッドパターン、非対称形状、高剛性トレッドを採用することで、高い静粛性と快適な乗り心地を実現しました。</p>
 <p>床下高さが小</p> <p>無勾配でサイホン力で排水</p>	<p>サイホン排水システム</p> <p>サイホン排水システムはサイホン力（水が落ちることによって発生する引力）を利用する新しい排水システムです。当システムを採用することで、マンションの床下空間を従来の排水システムより低く設計でき、キッチンなどの水回りの配置の自由度が向上します。また、入居後の間取り変更が可能となり、ライフスタイルに合わせたリニューアルの実現が期待できます。</p>
<p>*画像は参考完成車</p>  <p>ANCHOR 9</p>	<p>ANCHOR RT9 ※フレーム単体での商品です。</p> <p>ANCHOR RT9は、タイムトライアル種目専用バイクです。高速巡航を維持するために空気抵抗の低減を意図した設計が随所になされている他に、フレーム素材に高弾性カーボンファイバーを使用し、軽量・高剛性化を実現しています。また、電動変速用のバッテリーとリアブレーキをフレームの下側に配置することで低重心化し、走行中の安定性も向上させています。</p>

※7「グッドデザイン賞」は、1957年に通商産業省（現経済産業省）によって設立された「グッドデザイン商品選定制度」を継承し、1998年より公益財団法人日本デザイン振興会が主催する総合的なデザインの推奨制度です。

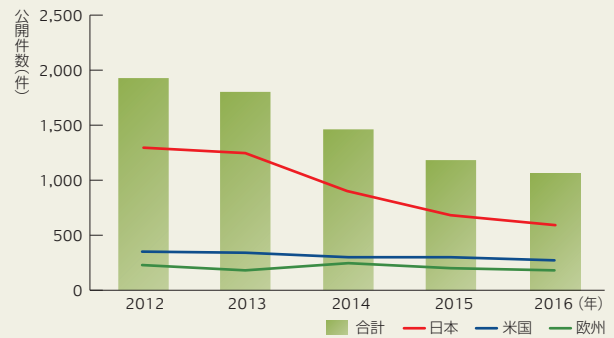
資料

□ 知的財産権の総数(当社グループ会社*)



※(株)ブリヂストン、ブリヂストンサイクル(株)、ブリヂストンスポーツ(株)、ブリヂストンフローテック(株)、旭カーボン(株)、Bridgestone Americas, Inc.、Bridgestone Europe NV/SA 2016年12月31日現在

□ 特許公開件数の推移(当社グループ会社* 日本・米国・欧州、2012年～2016年)



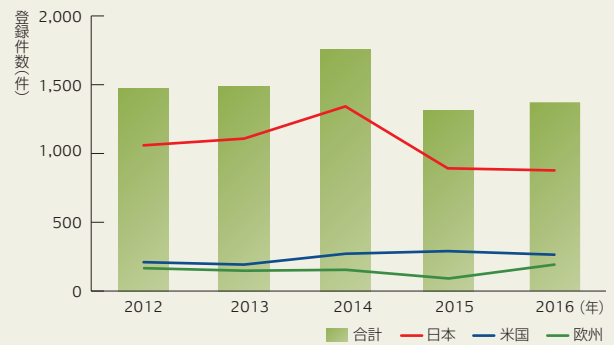
※(株)ブリヂストン、ブリヂストンサイクル(株)、ブリヂストンスポーツ(株)、ブリヂストンフローテック(株)、旭カーボン(株)、Bridgestone Americas, Inc.、Bridgestone Europe NV/SA 2016年12月31日現在

□ 当社特許権の活用状況

	(件)		
	タイヤ	多角化商品	合計
日本特許	4414	1935	6349
実施中	2354 (53.3%)	1100 (56.8%)	3454 (54.4%)
その他*	2060 (46.7%)	835 (43.2%)	2895 (45.6%)
外国特許	7023	5704	1319

※ 将来実施予定特許、防衛特許等を含む。単体、2016年12月31日現在

□ 特許登録件数の推移(当社グループ会社* 日本・米国・欧州、2012年～2016年)



※(株)ブリヂストン、ブリヂストンサイクル(株)、ブリヂストンスポーツ(株)、ブリヂストンフローテック(株)、旭カーボン(株)、Bridgestone Americas, Inc.、Bridgestone Europe NV/SA 2016年12月31日現在

会社概要

社名	株式会社ブリヂストン(BRIDGESTONE CORPORATION)
本社所在地	東京都中央区京橋三丁目1番1号
代表者	取締役 代表執行役 CEO 兼 取締役会長 津谷 正明
設立	1931(昭和6)年3月1日
資本金	1,263億5,400万円
従業員数	13,617名*
連結従業員数	143,616名*
主な事業内容	事業区分 内容

タイヤ	乗用車用、トラック・バス用、建設・鉱山車両用、産業機械用、農業機械用、航空機用、二輪自動車用のタイヤ・チューブ、タイヤ関連用品、リトレッド材料・関連技術、自動車整備・補修、タイヤ原材料 ほか
多角化	(化工品) 自動車関連部品、ウレタンフォーム及びその関連用品、電子精密部品、工業資材関連用品、建築資材関連用品 ほか (BSAM多角化) BRIDGESTONE AMERICAS, INC. が統括する屋根材事業 ほか (スポーツ用品) ゴルフボール、ゴルフクラブ、その他スポーツ関連用品 ほか (自転車) 自転車、自転車関連用品 ほか (その他) ファイナンス ほか

※) 2016年12月31日現在



第14回ブリヂストンこどもエコ絵画コンクール
ブリヂストン大賞 受賞5作品

株式会社ブリヂストン

広報部

東京都中央区京橋3-1-1 〒104-8340
電話 (03)6836-3333 FAX (03)6836-3184
<http://www.bridgestone.co.jp/>